

今なぜ注目されるのか？

# 大工が建てる「木の家」



## 「技」があつてこそ、木が生きる

日本の風土に合った合理的な木の家は誰にでも建てられるわけではなく、木を見極め、その性質を生かして刻み、組み立てられる「大工の技」が必要です。

1 本の木から柱や梁、壁板などをどのように刻むかの見極めは、代々受け継がれてきた技法と、重ねてきた経験によるもの。すでに板や角材に製材されていても、年輪や微妙なそり具合で木材の配置を変える「適材適所」が、大工の真骨頂です。いい木の家は、いい木を見極められる、いい大工の腕があつてこそと言えます。

## 住み手の要望に応えられる柔軟性

さらに具体的に大工の家の長所を挙げるとすると、自由設計で住み手の細かな要望にも対応し、便利で住みやすい空間が実現できるといえるでしょう。

## 100年先を見据えた大工の家づくり

現在は環境面でも経済性からも、耐久年数の長い住宅が求められています。当然の間には家族構成も住まい方も変わってきます。大工の家は、こうした変化に伴うリフォームが、比較的簡単にできるつくりになっています。このような増改築を想定した家作りも、大工さんの得意技。間仕切りを作ったり取り払ったり、バリアフリー化も、木の家なら柔軟に対応してくれます。今は必要なくても、どうなるかわからない将来に備えることができ、木の家は安心も一緒に届けてくれるのです。



## 家づくりにかける大工の心意気

大工は、「娘を嫁に出すような気持ち」で、家を建てるといいます。住む人に、「どうかうまく面倒を見て、末永く大事に住んでほしい」と祈るような気持ち。お客様に住まい方をアドバイスし、メンテナンスなど定期的な声かけするのも、そういった理由からです。長期間にわたって見守り続け、家のことを一番よく知っている大工だからこそ、不具合が起きても、最善の方法で対処できるのです。

「個人営業の大工さんは廃業してしまわないか心配」という声にこたえて、平成23年春「ふくいの家」サポートセンター(↓29P)が誕生しました。福井県内の登録した大工らが建てた家の記録を残し、万が一建てた大工がアフターフォローできない場合でも、同等の技術を持った代わりの大工を紹介してくれます。

## 進化する大工の家

木造住宅が注目を集める一方で躊躇する人がいる大きな原因のひとつ

とでしょう。住まい方にこだわりがある人ほど、大工が建てた家の良さは実感できるはず。10人いれば10通りのライフスタイルがあり、スタンダードな設計では、どこかしら使いにくい部分が生まれてくるもの。家事室や台所の食品置き場ひとつでも、女性が専業主婦なのか、どのような働き方をしているかで便利な配置が変わってきます。家族それぞれの嗜好や休日の過ごし方などに合わせ細部にまで合わせてくれるのも、大工の家ならではの特典と言えます。



置き場所に困るゴミ箱もすっきり収納する大工の知恵

は、「大工の木造住宅」昔ながらの古風な外観」という先入観があるからではないでしょうか？しかし、今では洋のエッセンスを取り入れた外観や、吹き抜けの内部構造など、大工の家の造りも多種多様。その上で、家を守りながら日の光を取り入れる庇(ひさし)や、風通しのよい窓の配置など、日本家屋本来の長所もしっかりと活かされています。

日本では今、中古住宅が余っているとされます。それは、いい住宅でないと買い手がつかないから。大工が建てる長持ちする家は、住宅市場での保証書の役割も果たしてくれるのです。

